

3

This is a story from long, long time ago.

There lived a shepherd-boy in a small village.

One day, the shepherd-boy was lying on a grass field gazing into the sky.

“Ugh, I am sick of taking care of sheep every day. Is there anything interesting to do...? Oh, I know!”

The shepherd-boy leaped and hurriedly ran to his village.



5

When the shepherd-boy arrived at the village,
he walked around the village screaming:

“It’s a wolf! A Wolf is here! Everyone must evacuate!”

“What…a wolf!? We need to get to a safe place!”

“Oh my God, someone help us out!”

People in the village started to panic; crying, running
and bumping into each other.



むかし むかしの おはなしです。
とある ちいさな まちの ちかくに、
ひつじかいの しょうねんが すんでいました。

あるひの こと。
しょうねんは、のはらの まんなかに ねころがって、
のんびりと そらを ながめていました。

「あ～あ、まいにち ひつじの せわ ばかりで、
もう いやになっちゃうよ。
なにか おもしろいこと ないかな～
・・あ、そうだ！」

しょうねんは ぴよんと とびあがると、
いそいで まちに むかって はしりだしました。



21

そして、まちに ついた しょうねんは。

「おおかみだ、おおかみが きたぞ！
みんな にげろー！！」

そう さけびながら、
まちじゅうを はしりまわりました。

「ええ、おおかみだって！？はやく にげないと！」
「きゃー、だれか たすけてー！！」

ひとびとは、ないたり、ころんだり、ぶつかったりと、
もう おおさわぎ。

